

## 電磁波吸収テープ NRF-005T の導入(16)(HP 収載)

### ーアナログ再生システムへの適用(2)ー

#### 1. 始めに

前方(15)に引き続き、旭化成の Pulshut を応用したオヤイデの電磁波吸収テープ NRF-005T のアナログ再生システムへの適用を検討します。

#### 2. 電磁波吸収テープ NRF-005T の試聴方法

今回のアナログ再生システムとしては GARRAD401 のシステムを対象とします。GARRAD401 は、ステップアップトランス Stage1030 とフォノイコ iPhono(MM 入力)経由で下記の再生経路となっています。

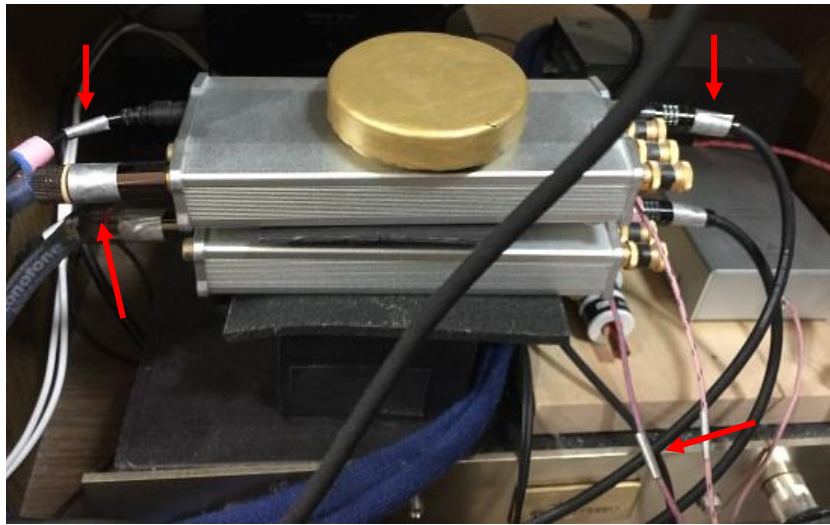
GARRAD401→Stage1030→iPhono L/R2 台→TruPhase

既に、前報(7)では GARRAD401 共用アースライン、STAGE 1030 フォノケーブル入力端子、TruPhase への RCA 出力端子などに NRF-005T を貼っており、今回は前報(15)に倣って、その他のケーブルにも NRF-005T を貼ってみます。

GARRAD401	AC ケーブル アースケーブル
Stage1030	引き出し RCA ケーブル アースケーブル
iPhono×2	DC ケーブル×2 アースケーブル×2 引き出し RCA ケーブル

Stage1030 の引き出し RCA ケーブルは iPhono に近い方に貼ります。

iPhono の引き出し RCA ケーブルも iPhono に近い方に貼ります。



iPhono 入出力ケーブル、アースケーブルおよび DC ケーブルの例  
音質の評価は、前報 (15) と同様、下記の盤の再生で行います。

**Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929**

**J.S.Bach Sonatas & Partitas**

**Nathan Milstein (Vn)**

**ドイツグラモフォン MG9551**

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

**LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)**

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウーンフィル

### 3. 電磁波吸収テープ NRF-005T の試聴結果

最初に上記の NRF-005T の処理なしの状態では聴いておき、上記の NRF-005T の処理の効果を確認します。

GARRAD401 のカートリッジは、Ortofon の SPU Royal N で、繊細な表現力がありますが、前報 (7) の対策後も若干音の焦点が合いにくいところも残っています。

Bach の Sonatas & Partitas では、上記の NRF-005T の処理により、焦点が定まらないところが残っていましたが、音像が明瞭になり、ヴァイオリンのボウイングの様子が把握しやすくなります。

選帝侯のソナタでは、上記の NRF-005T の処理により、打鍵がクリアーになり、余韻もしっかり聞き取れ、LINN LP-12 の印象に近づいています。

ワルキューレでは、上記の NRF-005T の処理により、SPU Royal N としては苦手な曲ですが、音像が明瞭になることで迫力も向上しています。

多くのポイントにまとめて貼りましたので、どこが効果的であったかということは

言えませんが、全体として LP-12 に近づいた印象です。

#### 4. まとめ

GARRAD401 の AC ケーブルとアースケーブル、Stage1030 の引き出し RCA ケーブルとアースケーブル、iPhono の DC ケーブルとアースケーブルおよび引き出し RCA ケーブルへの NRF-005T の処理の全体としての総合効果を認めました。

以上